

映画タイトル	Forever Fever または That's the Way You Like It (フォーエバー・フィーバー)
製作年	1998 年
DVD 情報	日本で入手可/英語字幕なし (99 分)
監督	グレン・ゴーイ
映画について	『フォーエバー・フィーバー』は、1977 年のアメリカ映画『サタデー・ナイト・フィーバー』が世界中にまきおこしたディスコブームをモチーフにしています。ディスコに夢中になるシンガポールの若者たちを描いた 1998 年の映画で、シンガポール映画史上空前の大ヒットとなりました。
主要キャスト	エイドリアン・パン (ホック役)、メダリン・タン (メイ役)、アナベル・フランシス (ジュリー役)、ピエール・プン (リチャード役)
あらすじ	1977 年のシンガポールが舞台。主人公の青年ホックは、ブルースリーのカンフー映画が好きで、日頃はスーパーマーケットに勤め、家では口うるさい両親や出来のいい医学生の弟、多感な年ごろの妹と一緒に暮らしている。ホックは友達に誘われてみた映画「フォーエバー・フィーバー」の影響で、幼馴染のメイをパートナーとして誘ってディスコダンスコンテストに参加し、6000 ドルの賞金を獲得して憧れの新型バイクを買おうと考える。金持ちで自信家のリチャードがホックへのライバル意識を燃やし、リチャードの恋人ジュリーもホックに関心を示す。一方でホックの家庭では医大生である弟のベンが、思いがけない行動に出てホックはその対応にも追われる…。
英語の特徴 発音・文法・語彙	<p>シンガポールの英語は大きく分けると、標準シンガポール英語と口語シンガポール英語の二種類があります。標準シンガポール英語は学校で教える標準的な英語で公的な場で用いられるものです。一方、口語シンガポール英語はマレー語や中国語(福建語他)の影響を受けた英語で「シングリッシュ」とも呼ばれます。標準シンガポール英語と口語シンガポール英語を使いわける人もいれば、口語シンガポール英語のみを話す人もいます。</p> <p>この映画のなかで、ホックやホックの親しい友達が話しているのは口語シンガポール英語です。ホックの弟のレスリーや、ダンス教室で出会うジュリーは口語シンガポール英語の特徴が少なく、標準シンガポール英語に近い英語を話しています。</p> <p>【音声的特徴】口語シンガポール英語の音声上の大きな特徴は短母音と</p>

	<p>長母音の区別がないことです。例えば pull と pool の区別や、hit と heat の区別がないため、映画のなかでも Hock と Hawk の発音が区別されずそれが笑いを呼ぶ場面があります。映画館のスクリーンから出てきた劇中人物（アメリカ人スターという設定）とホックが会話するところで、ホックは My name is Hock. と自己紹介しますが、それに対する劇中スターの返答は OK Hawk, now listen, bird man. というようにホックのいう Hock と Hawk を混同したものです。また、語末の閉鎖音が開放されなかったり、声門閉鎖音（喉で息を止める音）が代わりに用いらたりすることも特徴的です。</p> <p>【文法的特徴】文末に助詞を付加することが口語シンガポール英語の特徴で、特に lah がよく用いられます。例えば次のような会話です。</p> <p>メイ：Aiya busy lah. (忙しかったのよ)</p> <p>友人：I thought you're not going to come tonight. (今晚は来ないと思ったよ)</p> <p>メイ：I changed my mind lah. (気が変わったの)</p> <p>ここでは、終助詞のように文末に付加される lah が使用されています。なお Aiya は中国語の間投詞です。</p> <p>付加疑問文として、主語動詞に関わらず文末に is it? が用いられるという特徴がこれまでに指摘されてきました。この映画のなかでは、or not がよく用いられます。Can I see or not? / Do you know who I am or not? / Are you OK or not? などです。</p>
映画のみどころ	<p>『フォーエバー・フィーバー』は歌と踊りにあふれた楽しい青春映画です。主人公のホックは、仕事に遅刻しがちで両親からも期待されておらず、遊びといえば男友達とカンフー映画を見に行くくらいというぱっとしない平凡な中国系シンガポール人の青年として描かれています。そのホックが、ディスコダンスに出会い踊りがうまくなっていく様子が、新しい自分を発見し徐々に自信をつけていく様子と重ね合わせて、コミカルに描かれています。初めてディスコに行く前に着ていく服を買いに行ったホックが何着も試着してヘアスタイルを変えていくところなどは『プリティ・ウーマン』男性版といった感があります。ダンスフロアで踊りを披露して場をさらったホックの姿は別人のようで、憧れの令嬢ジュリーが目を見張ったのも無理はありません。また、サクセスストーリーでありながらも、あくまでもコメディタッチは崩さず、また一方で、家族崩壊の危機などもサブプロットして描かれています。</p>
その他	『世界の英語を映画で学ぶ』第8章でより詳しく論じています。